

つどい まなぶ むすぶ



よろこび

2016年12月号 (No.11)

CONTENTS

- ② 第14回鹿嶋市まちづくり市民大会
- ② 施設紹介・ようこそ！まなびの杜
「学習室1~4」
- ③ 市民センのひろば ほか
しみせん
- ③ 地域レポート・まちづくり探検隊
「平井地区 防災訓練」
- ④ INTERVIEW ROOM・きらり★まちづくり
「かしま食育たんぽぽ 渡辺けい子さん」



かしま灘楽習塾
「花と遊ぶフラワーデザインⅠ・Ⅱ」



て〜ら祭 ステージ発表
かしま灘楽習塾「フォークダンスなでしこⅠ・Ⅱ」



て〜ら祭 野外ステージ
「鹿島中学校吹奏楽部」



青少年のための科学の祭典
「移動博物館がやってきた!!」



市民カレッジ
「歴史ウォーキング」



鹿嶋リハビリ体操指導士会



て〜ら祭 展示・活動
たまり場ひまわり工房



レイレファ



かしま灘楽習塾
「野山の植物観察から庭木・園芸知識まで」



カシマフィルハーモニー



て〜ら祭 野外ステージ
「清真学園フライングエッグヘッズ」



キープスマイルダンスクラブ

第14回鹿嶋市まちづくり市民大会

(仮称)「人口減少社会の中での新しいコミュニティづくり」

平成29年2月5日(日)

13:30～ 開会

13:40～ まちづくり市民・団体表彰

14:15～ 講演・シンポジウム(予定)

地域再生プランナー
講師 久繁 哲之介氏

会場 大野まちづくりセンター
多目的ホール

主催 鹿嶋市・鹿嶋市教育委員会
第14回鹿嶋市まちづくり市民大会実行委員会

問合せ 鹿嶋市まちづくり市民センター
TEL: 83-1551/FAX: 83-1553
※事前の申込は不要です。

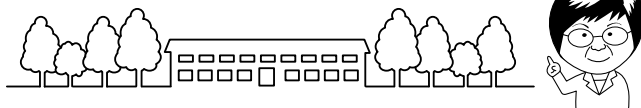
まちづくり市民大会は、地域のさまざまな課題や市民の主体的なまちづくり活動について、その成果や課題を共有し、あるべき方向性を確認する機会として開催、今年度で14回目になります。

平成27年度の国勢調査で総人口に占める65歳以上の割合が過去最高になり、4人に1人の割合になりました。今年度のまちづくり市民大会は、世界でも類を見ない超少子高齢社会を迎え、人口減少をもたらす課題等を確認し、そうした中でも、市民が楽しく幸せを感じながら暮らしていくためのコミュニティづくりを参加者全体で考える機会とします。



▲昨年度のまちづくり市民大会から

～まちづくり市民センターの館内をシリーズで紹介～



ようこそ! まなびの杜

(vol.8)

「学習室1～4」



今回は研修室より小さな学習室の紹介です。

3階の研修室の向かい側に、階段に近いほうから学習室1・2…と、4つの部屋が並んでいます。一番大きな研修室の1/3ほどの広さですが、黒板があり、研修室とほぼ同じ機能を備えているので、学習はもちろんのこと、会議・手芸や華道などの創作活動にも利用できます。

4部屋すべてに予約が入っている日は少ないので、当日の電話予約も可能です。お問い合わせください。

【主な用途】

学習・会議・創作活動 など



＜学習室データファイル＞

【場所】 B棟3階
【面積】 19㎡
【収容人数】 10名
【備品】 黒板、テーブル4台、イス10脚
【施設の予約】 利用日の前月の1日から予約可能
【利用料金】 市内在住・在勤・在学者は無料
但し、生涯学習活動ではない場合などは
有料(2時間まで240円、以降1時間毎に
120円加算)となります

利用しています!!

市民センのひろば



かしま灘楽習塾
「60才からのヨーガ(男女)」講師
城間 勝子さん(中)

心身ともに健やかに！健康の回復・増進を促していくヨーガです。高齢の方にも無理なくアーサナ(体操)ができます。



童謡唱歌を歌う会とハーモニカ教室で市民が楽しく元気で輝ける場として利用させていただいています。
童謡唱歌を楽しく歌う会代表
かしま灘楽習塾「ハーモニカ教室」講師
高柳 恵三さん(宮中)

エアロビクスはステキな曲によって身体を楽しく動かしながら、いい汗をかけるプログラムです。塾生の皆様の笑顔は最高！身体も心もポカポカですよ。ぜひ体験してください。



かしま灘楽習塾
「ゆったりソフトエアロビクス」講師
浜田 美沙さん(緑ヶ丘)

地域レポート



まちづくり探検隊 (vol.11)



堺田 孝志
実行委員長



▲避難場所へ参集訓練

平井地区防災訓練

「約1,300名が参加、市内で最大規模の訓練」

東日本大震災をきっかけに高まった防災意識を背景に、各地区で特色ある防災訓練が行われています。中でも平井地区では小中学生が全員参加し、地域の皆さんと合せ1千人以上がいくつもの訓練メニューをこなすという規模の大きさで知られています。実行委員長は堺田孝志地区まちづくり委員長。

今年の訓練は11月20日(日)。朝から消防団が巡回して避難を呼びかけ、防災無線を合図に各家庭から一時(いっとき)避難所、さらに平井中学校に集合する参集訓練を行い、全体会場では消火訓練、煙体験訓練、AED講習、DVDによる防災学習などが1,260名の参加者を得て展開されました。今年は中学生が配膳担当だった炊出し訓練で、初めて調理まで参加したり、県で1台の起震車を手配して地震体験コーナーを設けたりと、さらにバージョンアップ。

「経験と人脈豊富なまちづくりセンターの存在が大きい」。かつて会社で廃棄される予定だったヘルメットや2千食以上の非常食を、平井地区や市施設に提供したことがある堺田委員長は、訓練の充実振りに手応えを感じていました。



▲児童も全員参加



▲初めての起震車体験



▲煙体験を終えた子どもたち

掲示板

館内ウォームビズ実施中です

- 実施期間 12月1日～3月31日
- エアコンは20℃設定です
省エネ、節電にご協力ください。
- ご来館は暖かい服装で
防寒着、保温性の高い機能性下着等を着用するなどの対策をお願いします。



みんなで市民センターをきれいしよう

まちづくり市民センターをご利用のみなさんにお集まりいただき「年末の大掃除」を実施します。ご協力をお願いします。

【日 時】平成28年12月18日(日)
9:30～11:00

【集合場所】市民センター玄関前

【内 容】館内の清掃活動
屋外の落ち葉、ごみ拾いなど

※当日は清掃作業の出来る服装でご参加ください

こころでつなぐ 食育と被災地支援

かしま食育たんぽぽ

代表 **渡辺 けい子**さん (67歳・厨)



鹿行でひとりの1級?

「人を良くすると書いて『食』。食育って、人を良くして育てようという意味なんですよ」との解説が新鮮だ。医学博士で栄養専門学校長の服部幸應氏が提唱する食育だが、その重要性が認識され食育基本法が制定されたのがH17。食育インストラクターも同法で創設された。当時、渡辺さんは神栖市の保育所で300食を作る調理業務に従事していて、食のたいせつさを身にしみ感じていた。

さっそく試験を受け、H18の3級からとんとん拍子でH20に1級に合格。1級の有資格者はひよっとしたら鹿行では渡辺さん一人かもしれない。文科省や農水省など厚労省以外でも食育に力を入れ、学校では教師や栄養士が指導できるため、あえて1級の資格までいらないと考える人も多いという。「1級に合格するにはレポートを書いたり、人前で話したりしなければいけないのも面倒ですし」と語る。

て～ら祭の発表から 広がった活動

インストラクター初の活動は、かしま灘楽習塾の講座「食育の一步」。



▲鹿嶋から届けた鯉のぼりが大空に泳ぎ、七ヶ浜のこころを癒す

市民センターの「て～ら祭」で発表した活動のようすを見た市関係者から幼稚園や小学校での出前講座を勧められ、公民館も含めて年30回実施するまでになった。今も鹿嶋市内の認定子ども園の調理主任として300食を作り、身体がもう一つ欲しいくらいだが、「好きなことをやるのだから苦になりません」と意に介さない。

津波に奪われた 夫の母と兄夫婦

渡辺さんは東日本大震災以来、夫の出身地である宮城県七ヶ浜町への慰問活動を続けることでも知られる。

「夫の母と兄夫婦が津波で亡くなり、妹夫婦は避難所暮らし。母と兄夫婦の遺体が見つかって検死まで何日もかかり、お葬式が終わるまで週2回は通いました」。七ヶ浜町までは片道320km。ガソリン不足のため携行缶にガソリンを詰め、悪い道路事情から8～10時間かかったという。

四十九日を終え、賛同者を募って参加費1万円の慰問バスツアーを組んだのが8月11日。慰問物資もバス代も参加費で賄ったのだから、参加してくれた人には感謝の言葉が見つからない。12月には仮設住宅にシクラメンを届けるクリスマス



▲て～ら祭の食育たんぽぽのテントの前には、今年も長いお客さんの列ができた

ツアー、5月にはカーネーションを届ける母の日ツアーと、バス慰問は11回を数えた。「途中から、鹿島高校の生徒がシフォンケーキを焼いてくれ、銚田農業高校の生徒が花を育ててくれる縁ができ、思いがけず若い人たちと交流できてうれしかったですね」。

変わりない 被災地へのおもい

七ヶ浜町の仮設住宅は10月にすべて撤去されて更地になり、バスツアーに区切りをつける時期かと仲間と気にかける。「4月に起きた熊本地震への支援もやっています。勤務するこども園の夕涼み会の売り上げから6万円近い義援金を届けました。ツアーがなくなっても支援は終わりません」とキッパリ。て～ら祭での食育たんぽぽの売り上げも貴重な原資だ。食育だけでなく朗読会や国際交流など、渡辺さんの活動はたくさんある。「僕にはできないからお母さんが頑張ってくれ」と協力してくれる夫や娘の助け、上司や仲間の理解に手を合わせる日々が続く。

<PROFILE>

■わたなべ・けいこ

S24宮城県仙台市生まれ。工場新設が担当の同県七ヶ浜町出身の夫の転勤に伴い八戸市、神戸市などを経てH4鹿島町(当時)に転入。保育園の調理に従事する傍ら、食育インストラクター1級の資格を取り、年30回ほど学校や公民館でクッキングなどを通じて食のたいせつさを広める。長男は結婚して独立し、活動に理解ある夫、娘と3人暮らし。